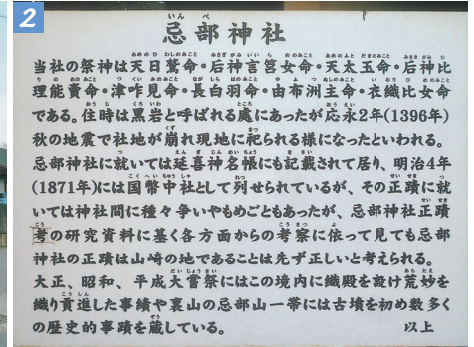




今回は、山川町周辺の歴史を感じる散策の旅です。



徳島より西へ車で約1時間、JR徳島線山瀬駅の近く、南東方向旧道にある「猿田彦大明神」の祠の所①より南へ少し山を登った所に「山崎忌部神社」②、③があります。この神社は、徳島県民のご先祖である忌部の大神（天日鷲命）を祀り、古来より国家鎮護の神として多くの人の信仰を集めてきました。大嘗祭には木綿・麻布などを献上し、麻植郡の名の基になったと言われています。明治初めに忌部神社・式内大社が国幣中社となったときに色々な論争が起き、その時に徳島市二軒屋町勢見山に、国幣中社忌部神社を新設することで論争を決着させたそうです。この忌部山には、6世紀後半の古墳があるという事で近辺を探しました。細い道から急に広い二車線の道路に出て、どちらの方向に行っても不明で、しばらく探しましたが発見することができませんでした。



次に山瀬駅と山川駅の中ほどに青木城跡があるというので行ってみました。こちらもわかりませんでした。現在は墓地になっているようです。

そんな状況で付近をドライブしていると「志良夜末比売（白山）神社」の案内標識④が目にとまり、車を止めて石段⑤を上り始めました。急な坂を上っていくと古い木製の鳥居⑥があり、案内標識に従って山道を進むこと約1時間、なんと長い参道でしょう。途中、車道や石段、竹藪、木馬道等⑦を歩きやつのことで「白山神社」⑧に着きました。ずっと続いた案内標識からもっと大きな神社と想像していましたが、コンクリート造りのこじんまり



したお社でした。体力に自信のある方は、ぜひこのアドベンチャーなルートに挑戦してください。あと淤膳夜末神社の案内標識も気になりますがこれは次の機会に。

お参りの後、車まで引き返し、次は「阿波和紙伝統産業会館」⑨⑩へ行きました。川田は手漉き和紙の生産で有名で、明治から大正にかけての最盛期には数多くの家で

作っていたようです。現在、川田和紙製造用具の多数が有形民俗文化財に指定され、製造された和紙が通商産業大臣により伝統的工芸品として指定されました。また同会館ではちぎり絵教室や藍染教室、絵手紙教室等も開かれており色々な和紙の販売もしております。

ここを出て一路、池田方面へ。途中左折して美郷方面へと進み「美郷ほたる館」の少し手前の「物産館」①に立ち寄り昼食、地場の産物等を見学後ほたる館へ。ホテルの時期にはホテルの発生地としてたくさんの人が訪れるようです。水棲のゲンジボタル、ヘイケボタルや陸棲のオバホテル、ヒメボタル等が付近一帯飛び交うとのこと。また、川田川の上流には雄大な景観の母衣暮露の滝があるとのこと。ホテル館を出て少し川上へ行った所で右下へ下るような道を行き川田川を渡り高開地区へ。同地区は「高開の石積み」シバザクラとして文化庁から重要地域の指定を受けて、年末は石積みのライトアップや4月の芝桜等、非常に魅力のある山村集落です。道が狭いので混雑時期には一方通行になります。運転には十分ご注意ください。

帰りは美郷温泉のある道を通り川島へ抜ける下り道の途中、吉野川の流れや街並みのすばらしい景観を味わえました。山川町には、高越山、高越寺、また阿波忌部の祖天日鷲命を祀る高越神社や国の天然記念物の船窪のオンツツジ群落等があり、1日かけてゆっくりと楽しむことができます。

